

【使徒の働き 28 章】

「大胆に、少しも妨げられることなく、
神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストの事を教えた。」(28 : 31)

難船から救われて、皆マルタ島に着きました。雨が降って寒かったので、島の人たちが火を焚いてもてなしてくれた時の事、柴を束ねて火にくべる時にマムシが這い出してきてパウロにかみついても何の害も受けなかったので、パウロを「神様だ」と言い出しました。島の首長のもてなしを受け、その父親が病気なので癒しをなしたことによって、島の他の病人もやってきて、直してもらいました。「それで、かれらは、私達を非常に尊敬し、出帆に必要な品々を用意してくれた。」のです。神の御業をなすことによって、同船の者が難船にあって全てを失いましたが、必要な物が備えられました。「神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらの者はすべて与えられます。だから、あすのための心配は無用です。～」(マタイ 6 : 33,34)

私たちの人生において順境ならば祝福で神の栄光を表せると言うかもしれませんが、必ずしもそうではありません。逆境にある時にかえって神に祈り、み言葉を頂き、信仰が奮い立ち神の栄光を見ることが出来ます。「あなた方は世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。私はすでに世に勝ったのです。」(ヨハネ 16 : 33)

とうとうパウロは幻に描いたローマの地にやってきました。様々な試練や苦難にあってきましたが、み言葉通りに彼は助けられ、彼と同船の人の命も守られました。ローマ人はパウロに死刑にあたる罪がないことを知って、番兵付きで自分だけの家に住むことが許され、「大胆に、少しも妨げられることなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストの事を教えた。」のです。パウロまさに生ける主の証人としての使命を果たしています。私達も様々な神の恵みを受け、神の御言葉の真実を体験したのは、このことの為です。ある人々は信じ、ある人々は信じなかったとありますが、時がよくても悪くても私たちは語り続ける必要があります。「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民に証され、それから、終わりの日が来ます。」(マタイ 24 : 14)

ここで使徒の働きは終わっています。この続きは、聖霊を受けた私達によって、書かれていくでしょう。宣教の第 2 ステージに立たされた私たちは、どこに重荷があるでしょうか？ 祈り、捧げ、宣教に加わってまいりましょう。



(天に登録されている長子たちの教会)

Church of the **Firstborn** who are **Registered in Heaven**

The Lord's Cross Christian Center

主の十字架クリスチャンセンター (TLCCC)

SHILOAM 【遣わされた者】

2011.8.28 No.646

今年のみ言葉 歴代士 II 20 : 14~22、特に 15 節

「あなたがたはこのおびただしい大軍のゆえに恐れてはならない。

気落ちしてはならない。

この戦いはあなた方の戦いではなく、神の戦いであるから。」



皆様のお手荷物・貴重品等には十分ご注意ください。

教会内での紛失や盗難等については一切責任を負いかねます。